

ワタカおよびゲンゴロウブナ種苗生産放流結果

根本 守仁

◆背景・目的.....

生態系の保全を目的として、琵琶湖固有種であるワタカおよびゲンゴロウブナ種苗をモデル水域である西の湖に放流した。

◆成果の内容・特徴.....

- ・ワタカについては、当场で種苗生産を行った。採卵は、6月3日から8月10日まで10回行い、合計1,124,800尾の孵化仔魚を得た。孵化から概ね40日間の初期生産については、生残率が48%で543,500尾が生産された。その後、3月下旬まで屋外池で飼育したが、生残率が82%で446,400尾の稚魚が生産された。
- ・ワタカについては、平成17年3月22～25日に平均全長30～65mmの種苗を合計446,400尾、西の湖へ放流した。
- ・ゲンゴロウブナについては、平成16年7月21および23日に平均全長30mmの購入種苗307,400尾を西の湖へ放流した。

◆成果の活用・留意点.....

- ・ワタカについては、今後さらに種苗放流量を拡大していくことから、業界への技術移転を視野にいたした事業規模での平易で安定した大量種苗生産技術の開発が必要である。
- ・今後は、両魚種ともに放流後の生残状況、成長、資源添加効果といった放流効果の把握に努める必要がある。さらに、ワタカについては、水草大量繁茂抑制を放流の目的としていることから、この効果を実証していく必要がある。

